SIDR 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

発行年月日：平成 26 年(2014 年)1 月 22 日
発　　行：滋賀県感染症情報センター
滋賀県衛生科学センター 健康科学情報担当
電話：077-537-7438　FAX：077-537-5548
e-mail：ef4505@pref.shiga.lg.jp

週報 平成 26 年(2014 年)第 3 週 (1 月 13 日～1 月 19 日)

- **インフルエンザ注意報が県内全域に発令されました**
- **報告数の多かった感染症はインフルエンザ、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

診断週	類型	報告数	詳細情報
第 3 週診断例	一類感染症	報告なし	
	二類感染症	結核 4例	70歳代男性、80歳代男性；2例、90歳代男性
	三類感染症	報告なし	
	四類感染症	報告なし	
	五類感染症	報告なし	
第 2 週以前の診断例 (*)	二類感染症	結核 1例	40歳代女性、第2週診断
	四類感染症	急性脳炎 1例	10歳以下女性、第2週診断

(*)平成25年 第 1 週以降に診断され平成26年第 3 週に報告された症例

2. 全数報告の感染症の累計報告数と保健所管内別報告数

平成 26 年第 1 週以降に診断された疾患を集計して累計報告数を滋賀県と全国について下の表に示しています。また、本週報の当該週に報告された症例数を保健所管内別に示しています。なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し掲載しています。

分類	疾患	滋賀県		保健所別(3週)							平成26年累計		平成25年累計※	
		2週	3週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国
二類	結核	6	4	0	2	1	0	0	0	1	10	750	277	26,471
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	142
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	40	4,033
四類	レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	18	1,111
五類	アメーバ赤痢	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	30	6	1,041
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1	284
	急性脳炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	20	3	358
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	205
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	5	207
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	13	1,550
	侵襲性インフルエンザ菌感染症※※	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	16	3	106
	侵襲性肺炎球菌感染症※※	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	116	11	970
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41	3	1,220
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	122	14,357
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	31
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	2	232

※　：平成26年1月現在 の暫定数

※※　：平成25年4月1日から感染症発生動向調査の対象感染症として追加

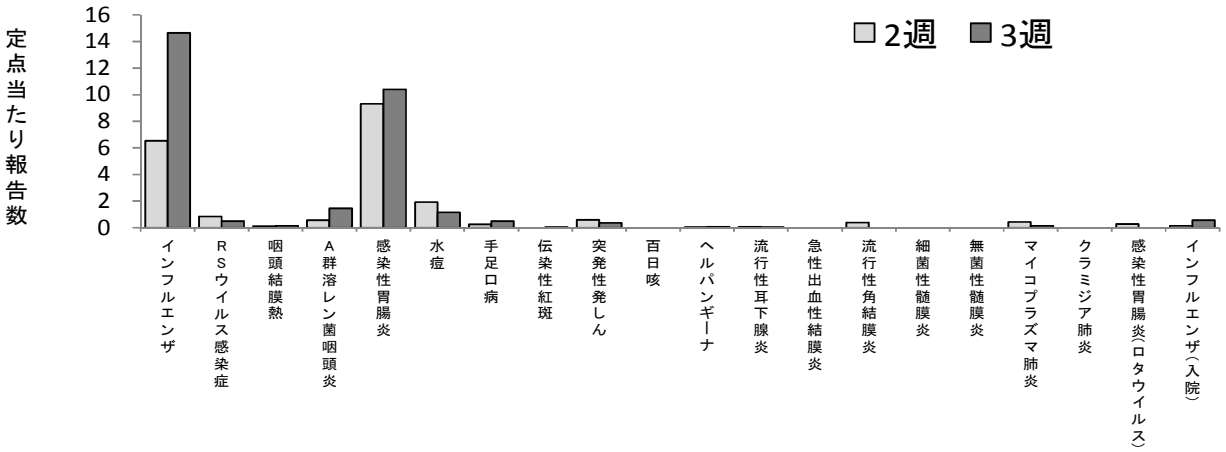
3.　定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

警報;　　なし

注意報;　インフルエンザ　　県内全域(注意報基準値;10)

1) 報告数の多かった感染症はインフルエンザ、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎です。
2) インフルエンザは、先週の 2 倍以上に増加しました。大津市(21.73)、草津(10.20)、甲賀(22.29)、東近江(12.63)および彦根(13.29)保健所管内で多く報告されています。
3) 感染性胃腸炎は、先週と比べて増加しました。甲賀(11.75)、彦根(12.25)、長浜(18.75)および高島(14.50)保健所管内で多く報告されています。
4) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、東近江(4.60)および長浜 (5.00)保健所管内で多く報告されています。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



4.　定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

感染症発生動向調査事業において、滋賀県が指定した定点医療機関(指定報告機関)から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。週単位(月曜日から日曜日)で報告される感染症について、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています(定点当たり報告数＝報告数/定点医療機関数)。

定点区分(定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(3週)						
		2週	3週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ(53)	インフルエンザ	6.53	***14.66***	***21.73***	***10.20***	***22.29***	***12.63***	***13.29***	8.29	9.33
小児科(32)	RSウイルス感染症	0.84	0.50	0.29	0.17	0.50	0.40	0.25	0	4.00
	咽頭結膜熱(プール熱)	0.13	0.16	0	0.33	0	0.40	0	0.25	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.56	1.47	0.14	1.17	0.50	4.60	0.50	0.50	5.00
	感染性胃腸炎	9.31	10.41	9.00	4.50	11.75	8.60	12.25	18.75	14.50
	水痘	1.91	1.16	0.86	1.50	1.75	0.40	1.00	1.75	1.00
	手足口病	0.25	0.50	0	0.17	0	0.80	0	1.00	3.50
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0.03	0	0.17	0	0	0	0	0
	突発性発しん	0.59	0.38	0.57	0.17	0.25	1.00	0	0.25	0
	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	0.03	0.06	0.14	0	0	0	0	0	0.50
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.06	0.03	0	0	0	0	0	0.25	0
眼科(8)	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	0.38	0	0	0	0	0	0	0	0
基幹(7)	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0.43	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※	0.29	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ(入院)※※	0.14	0.57	0	0	1.00	2.00	0	1.00	0

＊　平成25年10月14日の滋賀県感染症発生動向調査事業実施要綱改正に伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり報告数)を掲載

＊＊平成23年9月5日からインフルエンザ入院サーベイランスが開始されたことに伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり報告数)を掲載

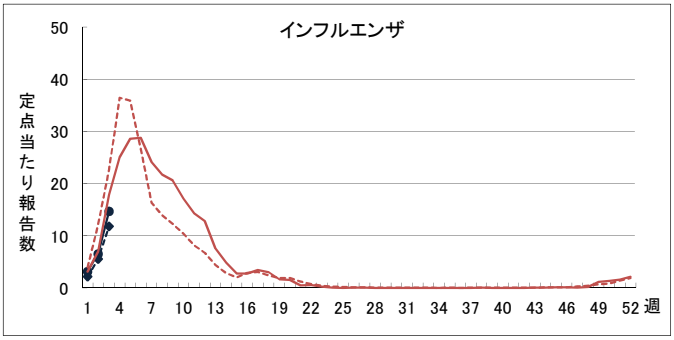
赤字：　警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過

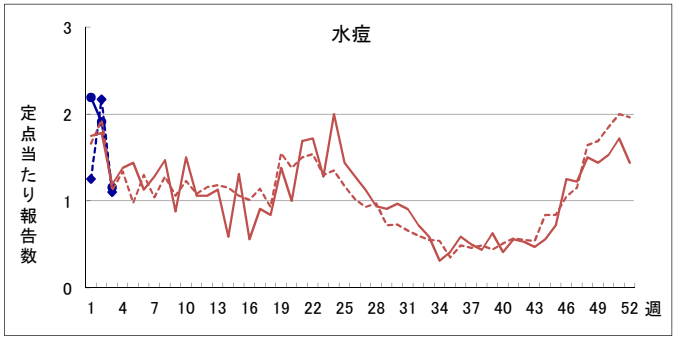
紫字：　注意報レベルの基準値を超過

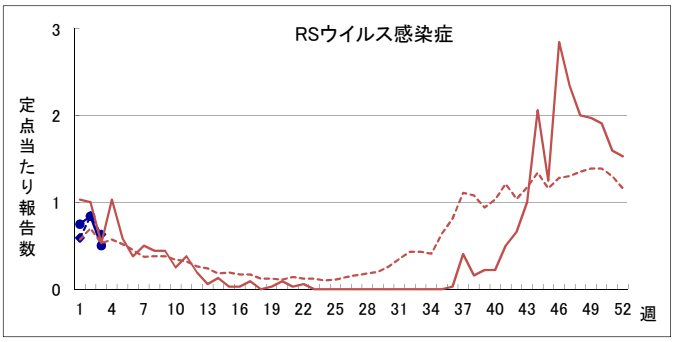
5-1. 疾病別定点当たり報告数

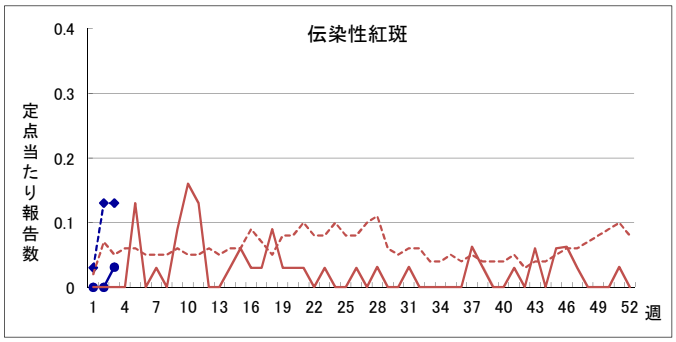
平成26年第3週

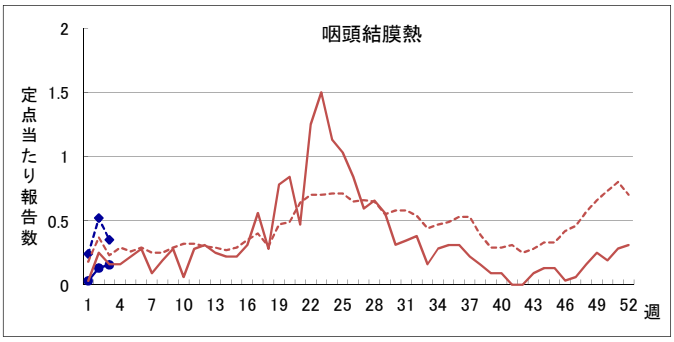
平成25年　全国　　平成25年　滋賀県
平成26年　全国　　平成26年　滋賀県

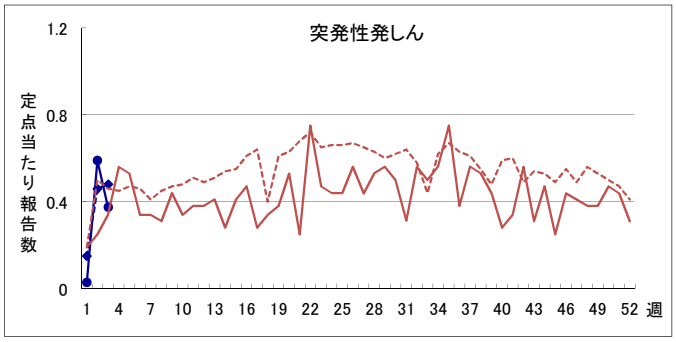


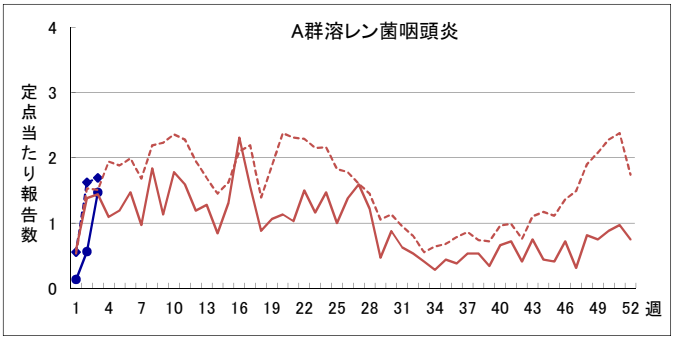


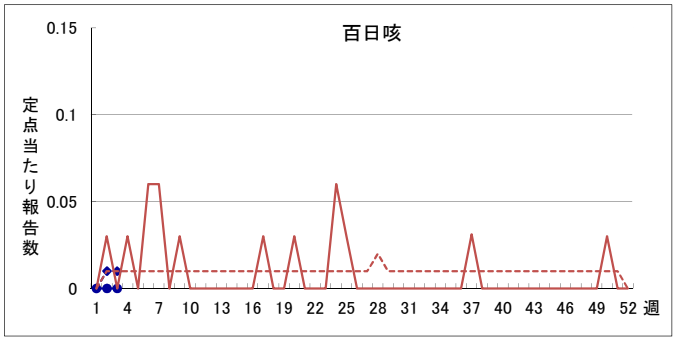


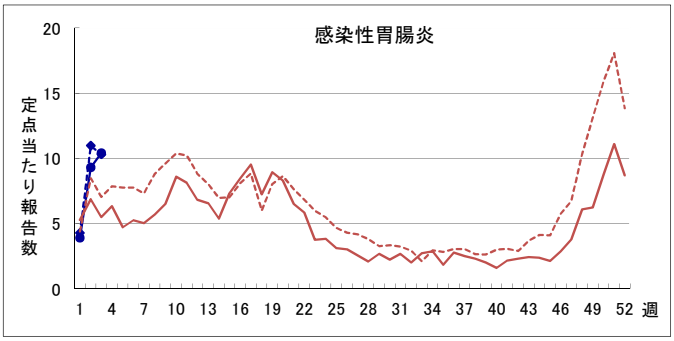


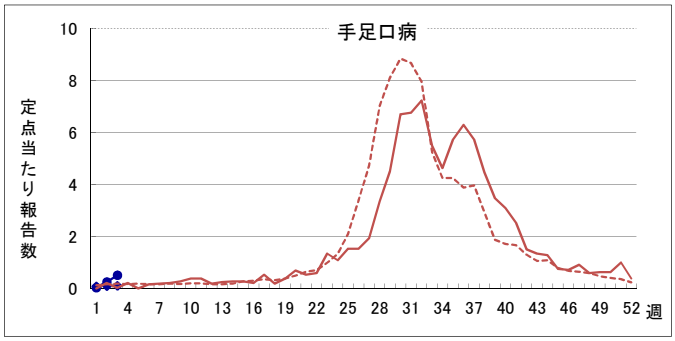








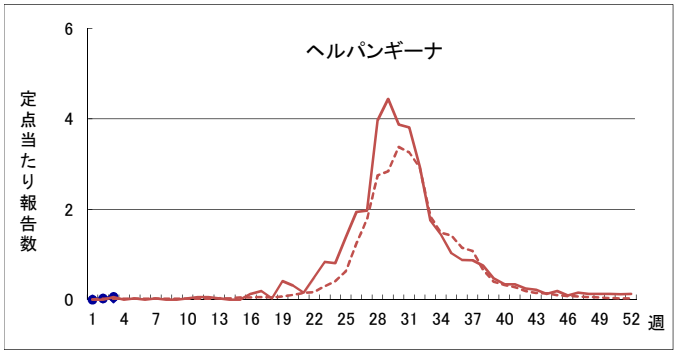


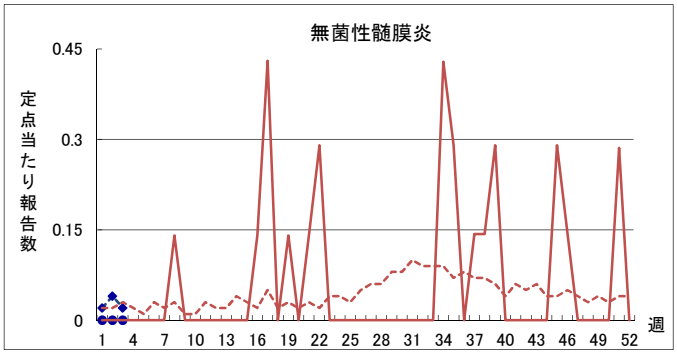


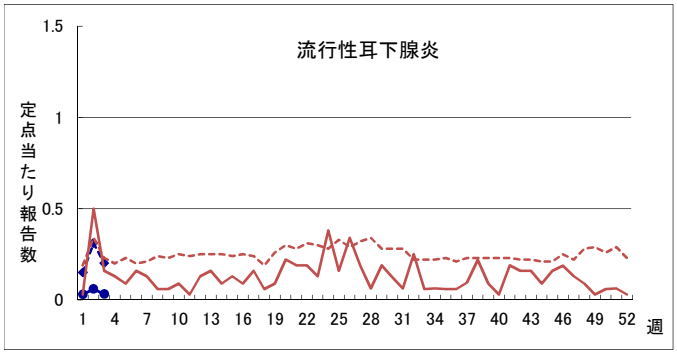
5-2. 疾病別定点当たり報告数

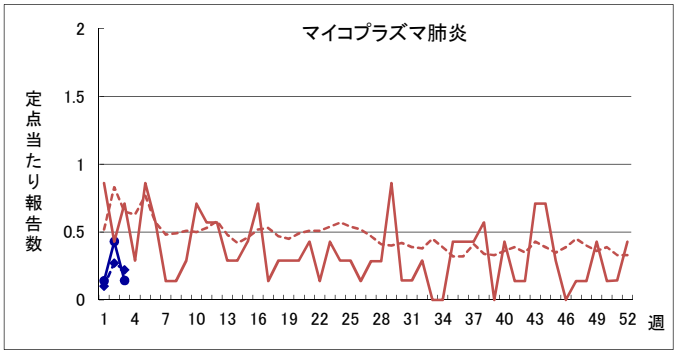
平成26年第3週

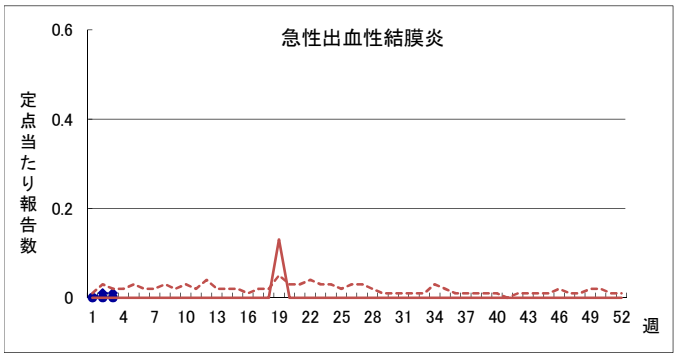
平成25年　全国　　平成25年　滋賀県
平成26年　全国　　平成26年　滋賀県

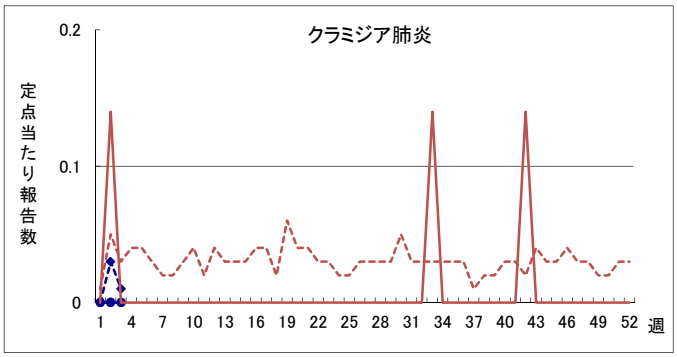


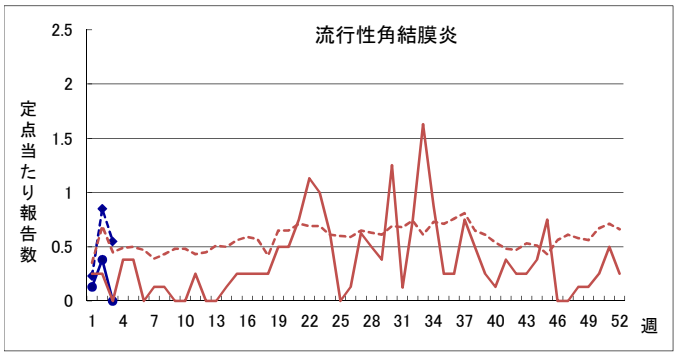


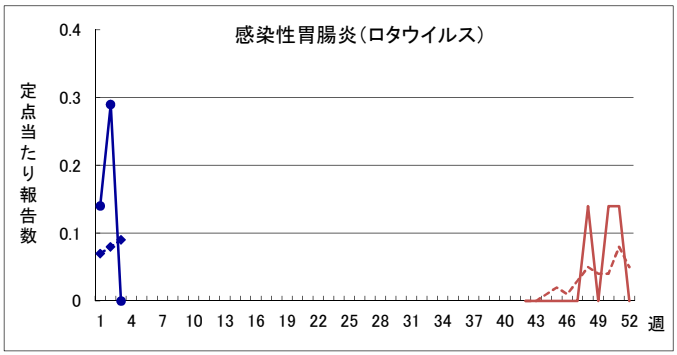


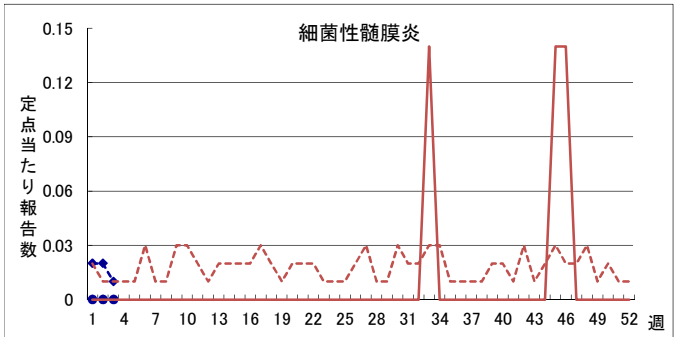


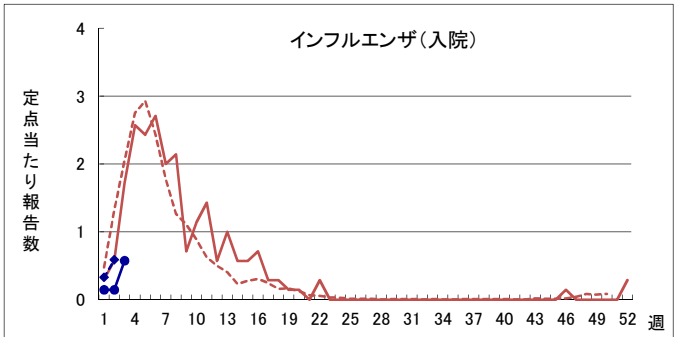












平成26年1月19日現在

インフルエンザの発生動向
平成26年第3週

1. 県内全域にインフルエンザ注意報が発令されました。
2. 先週（定点当たり報告数；6.53）と比べて2倍以上に増加（14.66）しました。
3. 大津市（21.73）、草津（10.20）、甲賀（22.29）、東近江（12.63）および彦根（13.29）保健所管内で多く報告されています。
4. 第3週に報告された症例は20歳以上で多くの報告がありますが、20歳以下の全ての年齢層でも報告されてます。
5. 第3週の滋賀県の定点当たり報告数は京都府（11.53）や大阪府（14.23）と比べて多い状態です。
6. 例年、患者報告は1～2月にピークを迎えていますので、報告数は今後も増加することが予想されます。

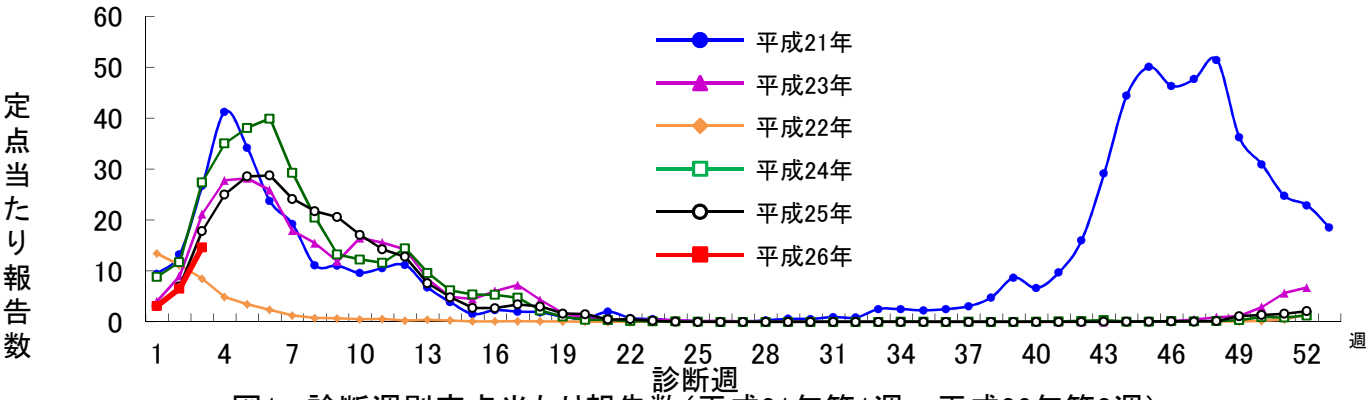


図1. 診断週別定点当たり報告数（平成21年第1週－平成26年第3週）

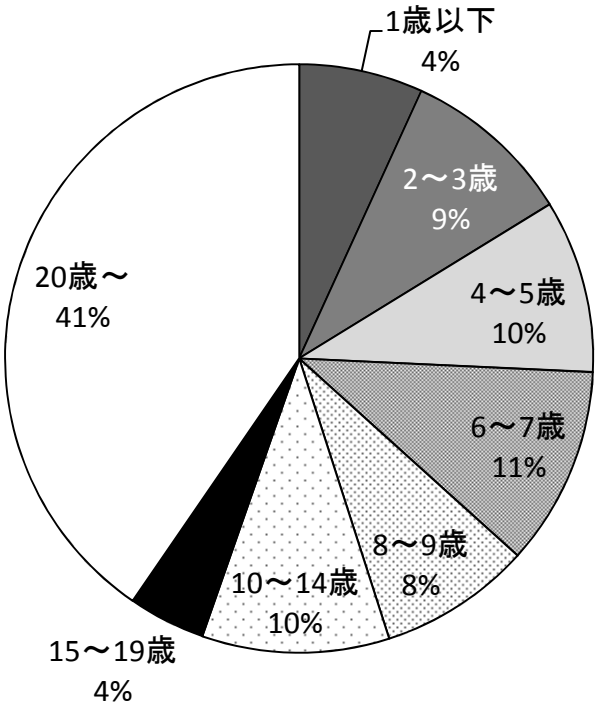


図2. 年齢割合
（平成26年第3週、n=777）

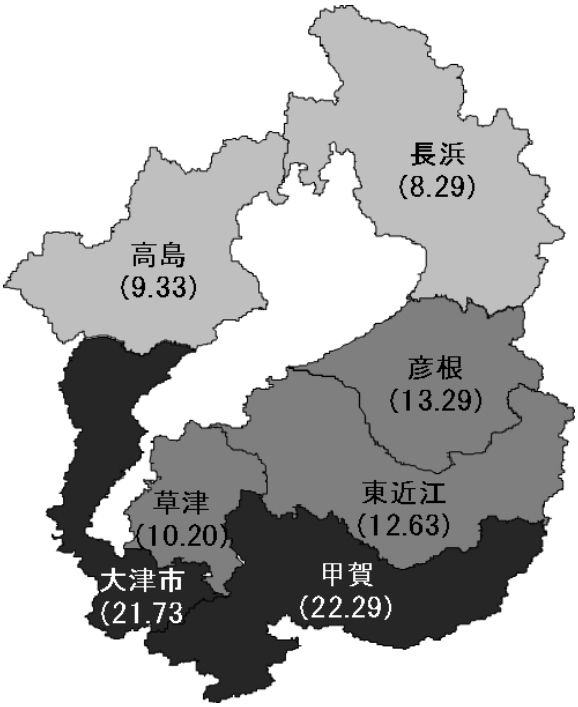


図3. 保健所別定点当たり報告数
（平成26年第3週）

平成26年1月19日現在

感染性胃腸炎の発生動向
平成26年第3週

1. 滋賀県全体では定点当たり報告数が10.41です。過去5年間と同様の報告数です。
2. 甲賀(11.75)、彦根(12.25)、長浜(18.75)および高島 (14.50)保健所管内で多く報告されています。
3. 過去5年においては、患者報告は12月にピークを迎えていますが、4月前後まで高いレベルで推移してます。

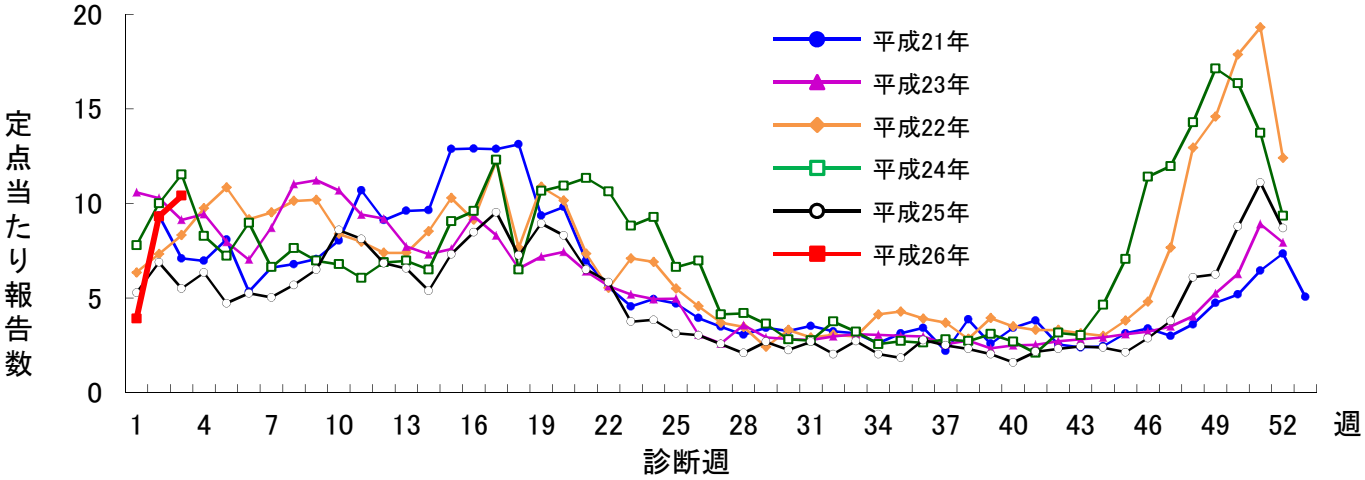


図1. 診断週別定点当たり報告数(平成21年第1週－平成26年第3週)

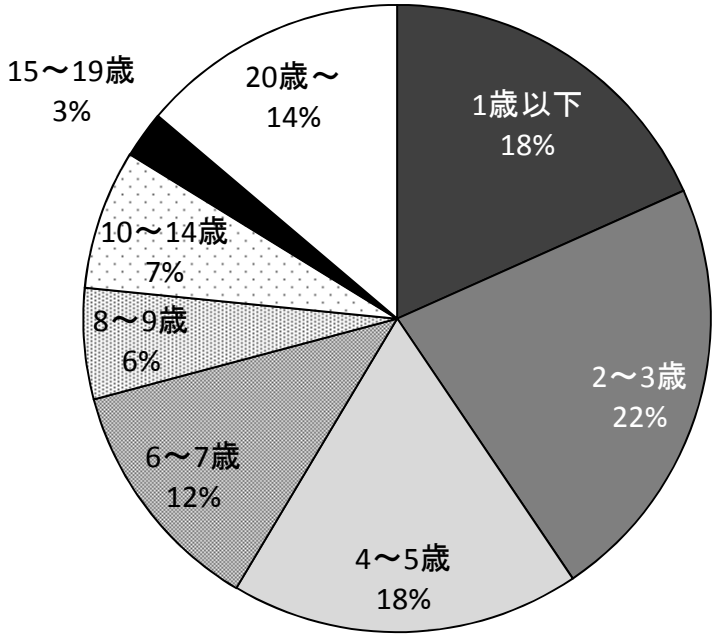


図2. 年齢割合
(平成26年第3週、n=333)

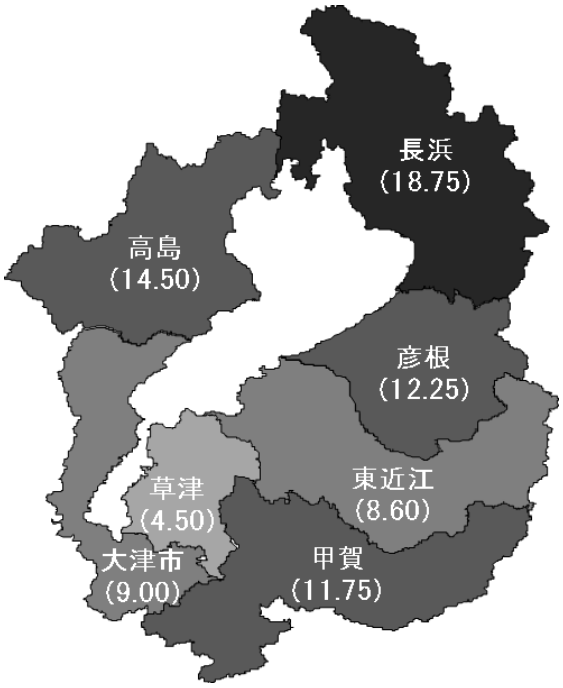


図3. 保健所別定点当たり報告数
(平成26年第3週)

1. 県内の小児科定点医療機関32か所より届出された感染性胃腸炎は患者の年齢分布は上記のとおりですが、本調査では小児科以外からは届出されないため、成人を含めた年齢分布は把握されておりません。
2. 冬季の感染性胃腸炎の原因の多くは、感染症発生動向調査の病原体サーベイランス等の過去の調査によって、ノロウイルスであると推定されています。